

# 蛭谷文化に親しんで

## 風景画展や紙すき体験

4日に朝日町蛭谷地区で開かれる「びるだんアートフェスティバル2017」を前に、地元住民らは3日、地元ゆかりの作家が描いた絵画の取り付けやバタバタ茶コーナーの設営を行った。当日は美術関連のイベント会場を周遊する無料バスが運行するため「町内外の多くの人に和紙をはじめとした蛭谷文化を楽しんでほしい」と期待している。

### 朝日 きょうアートフェスティバル



絵画の取り付けやバタバタ茶コーナーの設営が行われたフェス会場

アートフェスは「いってみたい、住みたい朝日町プラン 員会」が主催する。蛭谷の出

身などゆかりのある画家が蛭谷和紙を使って創作した風景画の展示、はがきサイズの紙すき体験、バタバタ茶の振る舞いと多彩な催しを繰り広げる。午前10時～午後3時。

前日準備では住民や町地域おこし協力隊らがメイン会場の蛭谷自治会館周辺で作業した。屋外では、海産物の薫製や化学肥料を抑えた特別栽培米、地元の自然体験学校・夢創塾で生産したナメコをPRするためのテントやのぼり旗を設置した。

無料バス「あさひアートループバス」は午前9時半から30分間隔であいの風とやま鉄道泊駅を発着する。蛭谷地区に加え、町美術館が開かれているアゼリアホールや「CRAFTあさひ たなごころの気持ち」（北日本新聞社後援）を開催中のなないろKANも通る。